

第 4 回 鳴子温泉地域学校統合に関する合同検討委員会 報告書

| | |
|------|--|
| 開催月日 | 令和4年 3 月 22 日(火) 午後7時～午後 9 時 |
| 開催場所 | 鳴子公民館 研修室1・2 |
| 出席者 | <p>●鳴子温泉地域学校統合に関する合同検討委員会 委員12 名</p> <p>【PTA】</p> <p>鳴子小学校:鈴木顕, 及川加菜恵 川渡小学校:松田早苗, 高橋鈴穂^{欠席} 鬼首小学校:大場雅和, 大沼明博^{欠席} 鳴子中学校:高橋慶行, 吉田真裕子</p> <p>【地域づくり委員会】</p> <p>鳴子地域づくり委員会:早坂利成^{欠席}, 遊佐直行 東鳴子地域づくり委員会:高橋日出夫^{欠席}, 阿部富士子 中山地区コミュニティ連絡協議会:戸部直美^{欠席}, 伊藤沙織 川渡地域づくり委員会:遊佐洋子, 濱田澄子 鬼首地域づくり委員会:高橋幹夫^{欠席}, 大沼幸男</p> <p>●事務局 7名</p> <p>教育長:熊野充利, 教育部長:宮川亨 教育部参事兼教育総務課長:宮野学, 課長補佐:久本裕 主幹兼係長:鈴木健, 主査:佐藤章, 主事:平山泰揮^{欠席} 学校教育専門指導員:玉水透</p> |
| 概要 | <p>1 開 会</p> <p>2 挨拶 教育長 熊野充利</p> <p>3 資料説明 以下の内容について別紙資料により鈴木係長が説明。 ①小学校のみで統合する場合(鳴子小学校を活用) ②統合後の学童保育に関する検討について</p> <p>4 意見交換(○:委員, ⇒:事務局)</p> <p>◇座長(熊野教育長)</p> <p>只今の事務局の説明内容(資料1, 資料2)について, 質問があればお願いしたい。</p> <p>◇吉田委員(鳴子中学校 PTA)</p> <p>○鳴子中学校のクラブハウスのミーティング室は1階なのか。場所はどこになるのか。</p> |

⇒1階になる。場所は体育館と校庭の間で駐車場の一角にあり単独の建物になる。学校に確認したところ現在は使用していないとのことだった。

◇及川委員(鳴子小学校 PTA)

○令和7年から9年までの児童数と学童保育の候補地になっている施設の上限人数をみると、希望者が全員入れるのかが疑問。共働きが増えている状況もある。川渡になった場合、遠くから来る児童も増え、低学年はもちろん高学年でも学童を利用するケースが増えると思う。

⇒学童保育は留守家庭(共働き家庭)が対象になる。学童保育の運営基準による上限人数は平均利用者数としての上限となる。例えば鳴子小学校の場合、登録者数は26人だが、平均利用者数は16人になっている。川渡小学校の平均利用者数10名を合わせて考えると、令和3年度の児童数161人のうち割合としては約16%にあたる人数が平均利用者数になる。この割合により機械的に計算すると、令和7年の平均利用者数は16人となるので、親の就労状況にもよるが足りるのではないかと予測している。実際に上限人数を超えることが見込まれる状況になれば、その時点で検討することになると思われる。

○スクールバスもそうだが、後から定員オーバーで利用できないというようなことが無いようにお願いしたい。

⇒統合準備の話し合いが始まれば、学童保育の担当が利用希望者の調査等を行いながら検討を進めることになると思う。資料の候補地は1箇所にとどめた場合を想定してのものだが、要望等の状況によりそれぞれの地域で継続することも当然考えられる。

◇遊佐委員(鳴子地域づくり委員会)

○鳴子小学校でも川渡小学校でも同じだが、特別支援学級、例えば鳴子小学校の場合にはコンピューター室を特別支援教室にする予定となっているが、どのようになるのか。また、どれぐらいの特別支援学級を予定しているのか。特別支援学級には「ことば(通級)」「知的障害」「情緒」などがある。案のようにコンピューター室を変更する必要があるのかどうか。生活科教室も空いている。3階の女子更衣室も本来教室だったところ。ランチルームもある。普通教室の半分のところは、相談室になっていた場所。この広さで対応できるのか。

⇒人数に応じて普通教室の半分のスペースを特別支援教室にしている学校は実際にある。対象となる児童数については、鳴子、川渡、鬼首の特別支援学級の人数をベースに考えており、案の対応で足りると想定した。コンピューター室については、昨年度ギガスクール事業により児童全員にタブレットが配付されたことにより、必要性がなくなったため、あくまで案として特別支援教室とした。

○デメリット(鳴子小学校を活用した場合)の記載があるが、私は鳴子小学校は不適當と考えている。かつて私が勤務していた時にスクールガード

もやっていたが、あの狭い学校坂を歩いて登らせる事ほど怖いことはない。冬は特に。そういったところから送迎には向かないと思う。スクールバスで上がるにしても、鳴子ホテルの駐車場と重なっていて、車両がバッシングすることもある。プールも実際寒い。ボイラーが古くなり使えない。温水シャワーも2台あるが劣化が激しい。鳴子ホテルの温泉のガス抜きがある。通学路のためロープを張っているが、かなり危険。そのせいで小プールの脇のフェンスが全て錆で溶けている。それで当時の校長先生がネットを張った経緯がある。本当に気を付けなければならない。そのネットの支柱もボロボロになっている。音楽室の階段も避難路になっているが、冬はとても使わせられない。雪庇ができて歩くところに落ちてくる。ものすごいツララができる。そういう意味で安全面を考えた時に、鳴子小学校はおすすめできない。こういった部分を委員の皆様にご認識いただきたい。登り口の階段の下に温水を通してあるのでいくらかはよくなったが、法面も雪がたまる。シーズンに1回くらいは業者に依頼し降ろさないと落ちてくるような状況。

◇伊藤委員(中山地区コミュニティ連絡協議会)

○小中一貫として鳴子中学校を活用した場合で、校庭が遠く先生が目が届かないという課題に対して、監視カメラの話があったと思うが、その対応策について検討状況を確認したい。

⇒可能な対応策としては、校舎南側の駐車場になっているスペースを遊具の設置スペースにするという考えがある。その場合、もともと広くないスペースなのでボール遊びなどはやはり校庭になると思われる。そこを監視カメラでカバーできればと考えている。現実的に可能な対策はこままでと思う。

○放課後に補助の先生がついてくれるというようなことはできないか。

⇒その部分は教員の配置等もあるため実際に統合校として開校してからになると思うが、統合準備の段階で検討することは可能と考える。

○皆が気になっているのは移動時間。休み時間に校庭まで行けるのかということ。今、子どもたちは5分や10分で着替えて校庭へということをしている。授業時間が減ってしまうのか、休み時間を長くできるのか、そのあたりはどうなるのか。

⇒統合の形態も含めて統合の合意がなされれば、統合準備委員会という組織を立ち上げ、具体的な事項の協議を進めることになる。統合準備委員会には下部組織として3つの専門部会(学校教育、総務、通学)を設置する。授業の組み方や休み時間の調整などは、カリキュラム等の教育部分の話し合いを行う学校教育部会で検討することになる。

◇阿部委員(東鳴子地域づくり委員会)

○前回小中一貫での統合ということで意思表示させていただいたが、どこか1箇所長く休み時間をとるなど、タイムテーブルを考えて課題をクリア

し校庭で遊べるようにしていただきたい。プールについても前回お話いただいたが、足場を沈めて嵩上げするという事で課題をクリアできると考えている。かつて勤務した経験から鳴子小学校の危険箇所は手に取る様にわかる。良い場所ではあるが行ったり来たりが危険。校門付近もいろいろと危険なことが多い。階段を上る形で登校するが、両脇のガードが崩れていたこともあった。雪が落ちてくる可能性もある。鳴子小学校の職員はいまだに輪番制で早く来て雪かきをしている。鳴子小学校には錆と雪との闘いがある。プールも寒い。

◇及川委員(鳴子小学校 PTA)

○鳴子小学校のプールについては、教育委員会に予算がなくボイラーを直してもらえないと聞いている。資料に書いてあるとおり、寒いとかわっているのに今まで対応してこなかったのかなと思う。雨漏りに関しても、これまで随分言ってきた今年度大きなところ(多目的ホール)を直していただいた状況。

⇒雨漏りに関しては大きなところ以外もその都度、業者に依頼し対応してきた。説明の中でもお話をさせていただいたが、雨漏りは原因を特定することが困難なため、対応はしているものの完全に直すことは難しく現状に至っている。体育館の雨漏りも何回も業者に見ていただいているが中々止められない状況になっている。

○スクールバスの話も出ていたが、ホテルの大型バスも上がってきている。その状況でスクールバスは難しいのか。

⇒バス会社に確認したところ冬は上らず、駅前で児童を降車させ、そこから徒歩で階段を上って登校しているとのことだった。

○中山から来るスクールバスは冬も上っているはず。

⇒確認した内容と実態に食い違いがあるようだが、重要なのはそういった状況を踏まえて相対的に委員の皆様判断いただくということ。狭い坂道を何台もスクールバスが通る状況であったり、駅前で降ろして徒歩で階段を上る状況であったり、鳴子小学校だけでなく、川渡小学校の状況、鳴子中学校の状況を踏まえて、どのケースが鳴子にとって良いのか考えていただきたい。決して鳴子小学校が良くないという話ではなく、そういった状況を踏まえていただきたいということでお話をさせていただいている。

◇高橋委員(鳴子中学校 PTA)

○まず考えるべきことは子どもの安全。話を聞いていて、鳴子小学校とする場合、いろいろと直さなければならないところがあるが、実際直すとなってもいつ予算がつくかわからない状況だと思う。

⇒国に補助申請して認定になった翌年度となる。現時点ではいつというお話しはできない。

○そういった状況を勘案すると、鳴子小学校とするケースには現実味がないと思う。特別支援学級の話も出たが、小学校の段階で把握することが必要だと思う。小学校3校の子どもたちが集まって支援クラスと

なったときに、学力がバラバラだとそこからの検討になってしまう。鳴子小学校、川渡小学校、鬼首小学校の子どもたちの学力がバラバラという状況は中学校の先生が大変だと思う。実際に見ていてそう思う。こういったところからすると、小中一貫という結論が一番落ち着くのかなと思う。地元から学校がなくなるというのは実際厳しいものがあるが、子どもたちが減っていくなかで、小学校のみの統合として中学校と別にしても良いことがあるようには思えない。学童保育の資料を作っていたが、鬼首の子どもが利用するケースもあると思う。そうすると1箇所だけでなく2箇所ぐらいあっても良いのかなと思う。実際にはアンケートを取るなどして進めていただければと思う。

◇伊藤委員(中山コミュニティ連絡協議会)

○1年生から9年生になるとして、行事は全学年で行うことになるのか。小学校だと運動会や学芸会。中学校だと文化祭など。

⇒運動会については全学年というところが多い。学芸会や文化祭といった部分は学校によって違うという状況。こういった部分は学校教育部会で検討することになる。

◇座長(熊野教育長)

○他にご意見等なければ、改めて委員お一人お一人からお考えをお話いただきたいと思う。

◇高橋委員(鳴子中学校 PTA)

○現実論で考えるのが一番妥当と思っている。行き着く先は鳴子中学校。黎明等に進学する子どももいると思うが、結局は早いか遅いか。小学校から中学校へ進学した時にギャップを感じるか感じないかというところで、そこを考えると小中一貫校にして建物や異学年の子どもたちに慣れていただくというところが一番。建物的にもある程度、手を加えれば対応可能と思われる。私としては小中一貫に賛同させていただく。

◇吉田委員(鳴子中学校 PTA)

○仕事柄地域の方と話をする機会が多く、未就学児の保護者や令和8年度に小学生、中学生となるお子さんの保護者とお話をした。統合については皆さんに周知されていて賛成だった。統合の形態について3案出ている状況だが、そのことについては知らなかったので状況を説明させていただいた。皆さんから「小中一貫だと思っていた」という驚きの声をいただいた。その中で、是非、検討委員会で小中一貫ということでお話いただきたいというお話をいただいた。話をした保護者は川渡の方が多かったが、中には鳴子小学校の方が近いが、あえて川渡小学校を選んで通わせている方もいて、鳴子小学校になると小中別々に通わせることになるので、できれば一緒の施設が良い、そうなれば行事等にも参加しやすいというお話をいただいた。当事者の方のお話であり、自分自身もこれまでいただいた会議資料をみて小中一貫が妥当ではないかなと思った。

◇大沼委員(鬼首地域づくり委員会)

○前日も今回も迷い続けている。鬼首小学校区は大崎市の面積の約4分の1。そういうところから中学校に続き小学校もなくなることになる。児童数を考えれば地区の方も統合は避けて通れないということをニュアンスとして感じているが、地域としてはこの地域の将来を何とかしていかなければと考えている。今までの皆さんの意見を聞くと、なるほどと思う意見もたくさんあった。小中一貫というのは地域にとってはチャレンジかもしれないが、保護者の皆様の立場から見ても、プラスになるものがあると感じた。ただ、鳴子中学校は特殊な配置になっている。造るときにこういった配置にならざるを得なかったという事情があったと思うが、現状はこうなので今後、保護者の声、地域の声をくみ取りながら、とにかくより良い方向へ進むように柔軟に対応できる体制を整えてほしい。

◇大場委員(鬼首小学校 PTA)

○先日鬼首小学校の卒業式があった。その際、現時点の話として3年後には廃校になりそうだということを保護者に伝えさせていただいた。統合校の場所がどこになっても整備のための経費がかかる。それに対して令和10年以降には児童が減少していく。それを考えると、田尻総合支所や鳴子総合支所のように、木造で廃校後はコミュニティセンターとして利用できるような校舎を建ててはどうか。鬼首小学校の保護者としては、学校がなくなるほどつらいことはないと感じている。今後、統合になるということは重々承知しているが、今日の会議の状況から鳴子中学校か川渡小学校というところだと思うが、この問題は本当に難しいと感じた。

◇濱田委員(川渡地域づくり委員会)

○大崎タイムスの記事で古川西部地区の安全祈願祭が行われたことを知った。5つの学校が統合して来年4月に開校するわけだが、校舎と屋内運動場が増築される。鳴子でもこういうことを期待して前向きに検討していこうではありませんか。一つお願いがある。学童保育の場所。候補地にあがっているところで実施すると考えると悲しくなる。例えば、もし自身のお子さんがクラブハウスの1室、体育館のミーティングルームに押し込められたならどういう風に思われるんでしょうか。放課後の時間はとても重要な時間。子どもたちが本音でぶつかってくる場所。今回はあくまで案としての提示だと思うので、本番では子どもたちのことを1番に考えて構想をたてていただければと思う。

◇遊佐委員(川渡地域づくり委員会)

○前回の会議で及川委員から鳴子小学校の案が出され、それに飛びついたが、今日、遊佐委員の話をきいて、鳴子小学校の実情がよくわかった。今日の会議の前までは築年数が比較的新しく鳴子小学校案に希望をもっていましたが、今日の会議の話を聞いて鳴子小学校は難しいと思った。いろいろ考えると川渡小学校も厳しいと思うので、そうなると残る鳴子中学校になるのかなということで決心した。ただ、学童に関しては

濱田委員と同じ考え。こんなところで学童をと思った。学童は本当にもう少し考えるべきだと思った。

◇松田委員(川渡小学校 PTA)

○未だ考えが定まらない状況。本当はどここの学校も単体でやっていきたいと思う。子どもが少ない学校が3つあるよりは1つにすれば都合がよいというような気持ちが僅かであれ、あたりもするのかなと思ったりもしている。統合するのであれば統合した先に子どもたちが行きたいとおもえるような学校、統合して良かったと思える学校を目指していただきたい。

◇伊藤委員(中山地区コミュニティ連絡協議会)

○選択肢がいくつもあると目移りしてしまう。個人的には鳴子小学校に統合して卒業式を見たかったなと思ったり、小中一貫の場合には2分の1成人式や立志式などを行うと思うが卒業式とは違うなとも思ったりする。しかし、皆それぞれ意見があって、それを全部叶えることはできないので、小中一貫として決めて、その中でより良いものを創っていくしかないと思う。本日もいろいろ質問させていただいたが、その都度回答をいただいているので、皆でより良い学校を創っていただければと思う。

◇阿部委員(東鳴子地域づくり委員会)

○逆戻りになるが学校がなくなった地域は本当に寂しいというのが正直な話。これから前を向いて、子どもたちの未来のために、子どもたちが良かったと思えるような新しい学校を私たちが考えていく時期になったんだと思う。予算面等いろいろ考えると鳴子中学校で小中一貫の統合が良いと思う。その中で、開校までの期間を使って検討に検討を重ねて、特殊な形状の土地、建物の配置をどう生かすか、子どもたちの安全をどう確保するか、そしてカリキュラムをどうするか考えてほしい。

◇遊佐委員(鳴子地域づくり委員会)

○子どもがいる限り学校を存続してほしいというのが本音だが、そういうわけにもいかないし、納得はしないが子どもの安全等これからのことを考えた時に、中学校に行くしかないのかなと思った。財政の厳しい大崎市なので、新しく建ててほしいと言っても難しいと思う。児童館等についてももっと考えていただければと思う。鳴子中学校になった場合、裏の道路に押しボタン式の歩道があるが、除雪のたびに塞がり、凍結もするので安全対策を考えていただきたい。

◇及川委員(鳴子小学校)

○統合は仕方がない状況であることは理解している。各地区も同じと思うが、学校がなくなるのは寂しい。しかし、今後、子どもたちが鳴子の豊かな自然の中で伸び伸び学校生活を送れるのであれば統合は仕方がないことだと思っている。ただ、ひとつ引っかかっているのが、小学生と中学

生の意識の違い。教育長の話では意識の差はあまりなく、仲良くなるということだったが、どうしても引っかかる。3年後に統合するとしても、その時点で自分の子どもは中学3年生になる。私たちよりもその後に関わってくる保護者の意見が反映されたら良いと思う。そして、そこに沿って行くしかないと思う。

◇鈴木委員(鳴子小学校 PTA)

○学校がなくなることの寂しさを感じつつ、未来をしっかりとみて最善を尽くして、大きな変化を飲み込まなければならないんだろうと思っている。また学童を片隅に押し込むようなことがないように、手をかけるところはしっかりかけていただくようお願いしたい。反対の方も納得するようなものにしていかないといけないと思う。その辺は皆さんの力と知恵をお借りしながら、私たちも体を動かさないといけないなど考えている。良い方向に大きく変わるために大変な思いをしたいと思う。皆さんのご協力をお願いします。

◇座長(熊野教育長)

○一通りご意見をいただいた。本来であればそれぞれの学校が残るに越したことはないというのが本音だが、やむなく統合を考える上で、子どもたちにとってどういった形が良いのか皆様からご意見をいただいてきた。貴重なご意見をいただいたことに感謝する。今話を聞かせていただくと、概ね「小中一貫」での統合が総意として理解してよろしいか。

(各委員了承)

それではご意見をいただき広がった部分を含め、教育委員会の中でしっかり検討させていただきたいと思う。カリキュラムに関する話も出たが、準備委員会の専門部会でしっかりと話をしていきたいと思う。本日の会議の内容は改めて「合同検討委員会ニュース」という形で出させていただくが、この統合に関する意見交換の場を設けながら前に進めていきたいと考えている。次の段階に進んだ話し合いの際にも、ご理解とご支援を賜るようお願いしたい。

5 その他

事務局より、今後、各学校、地域に出向き意見交換を行う旨説明。その中で合意形成がなされれば、統合準備委員会を立ち上げ次の話し合いの段階に進むことを伝えた。

6 閉会